



2023年 1月19日
第115号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川 一実
編集 情宣 担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

横浜地本2023年新春旗開き 発言要旨



助川委員長挨拶

新型コロナウイルス感染症とのたたかいは3年以上が経過した。常に危険と隣り合わせの業務を遂行し、昼夜問わず365日動かし続けてきた結果JR東日本の第2四半期決算では単体・連結共に赤字に転化する事ができた。会社はそのような現場の奮闘に添えていない。会社のスタンスは、労働組合ではなく社員の大多数を占める未組織労働者の数によって決定している。23春闘に向けて危機感を持って一層の団結と組織拡大は不可欠である。

23春闘の賃上げ議論が活発となっている。政府や経団連が言っている「賃上げ号令」は日本型経営、日本型の「職能給」型の賃金制度から廃止し、「評価給」を基礎とした「職務給」への転換という大転換が目的。労働者間の格差や賃金の底上げとは全く無縁の考えである。

私たちの重要な課題は矢継ぎ早の効率化施策に立ち向かって組織強化・拡大を実現していくこと。職場では働き方を大きく変化させる施策が進むにつれ、安全を揺るがす事象が増加している。会社の狙いは、仲間意識や労働者意識を否定し、従順な社員への変質させる変革の強制・強要。会社施策を強引に進めるために邪魔なJR東労組を敵視するようハラメントや不当労働行為が後を絶たない。国府津運輸区でJR社員に相応しくないから、相応しい人材になるためにと意識改革が強要されるまさに現場長への屈服を強要するパワハラが行われた。もはや安全第一主義ではなく生産性向上第一主義の「1円でも稼ぐ1円でもコストカット」によって、107の命を奪った福知山線脱線転覆事故前夜ではなく、只中に居る。「こんな職場でいいのか。その先に何かがあるのか」考えてもらいたい意見を出し合っ問題解決し会社を質す為に全組合員でたたかい抜く。

社会保障制度の削減やコロナによる経済不安・円安・物価高等で、労働者の生活水準が低下ローカル線の存続問題が浮上している。政府と会社が一体となって安易にローカル線の切り売りなど絶対に許してはならない。弱者切り捨て、格差を容認する政治に対して危機感を持って、来年の地方選挙を組合員と共に闘い抜く。

柿田書記長基調報告

◇経営姿勢に立ち向かい「安全・健康・ゆとり」ある職場を取り戻すたたかい
国府津運輸区の当該乗務員に対し行われている長期の懲罰的・見せしめの日勤教育は、事象発生から1ヶ月以上経過した今なお続いており、JR西日本福知山線脱線事故の「原因」ともなった日勤教育そのもの。原因究明とは関係のない作業をひたすら繰り返し、復帰の時期も示さない、精神的苦痛を与えることで人格破壊をし、新しい人格を入れる、これが会社のやっていること。会社は様々な手段・方法を用いて、私たちの「意識変革」を狙っている。「意識変革」を通じた脱退懲罰と、横浜地本の破壊、東労組の破壊。このことを最大の危機と捉え、全組合員との対話を通じ、会社に幻想を持たない、騙されない自分と仲間をつくり出していく。

◇2023年春闘
物価上昇に伴う賃上げムードに騙されてはならない。成果型賃金への移行がめざされている。1月5日、JR東日本の深沢社長は「業績自体が戻っておらず、回復させることが大事なテーマ。バランスを考えながら決めたい」と発言し、例え赤字でも出さない姿勢は年末手当と変わらない。年末手当の会社の超低額回答に対する怒りを取り戻し、組合員一人ひとりが抗議声明を発していく、そういったたたかい。組合員から未加入者に、一緒にたたかうことを求めていく。組織力は質であり数。組織拡大なくして要求は実現し得ない現実を組合員と一致することが重要なたたかいとなる。全組合員で23JR総連春闘をたたかい抜く。

◇反戦平和のたたかい
20年前から沖繩の「おばあ」達は口を揃えたかのように今は「戦後」ではなく「戦前」だとおっしゃっていた。この証言を私たちはどう受け止めるかにかかっている。政府は12月16日、外交・防衛政策の長期指針「国家安全保障戦略」などの安保関連三文書の改定を閣議決定。新聞紙面では「軍事大国化につながる安保政策の大転換」と報じられた。実際、沖繩の島々には自衛隊のミサイル部隊の配備が急速に進められ、今また沖繩が戦地にされようとしている。先日、米軍基地は標的となるから、今東洋一と呼ばれる沖繩嘉手納基地から米空軍のF15戦闘機部隊が撤退を始めていると聞いた。物資輸送、兵站輸送を担う鉄道も標的にされることは、ロシアによるウクライナ侵攻が証明している。もうすでに他人ごとではなく自分の身に降りかかっていることを自覚しなければならぬ。反戦平和も職場での経営姿勢も元を辿れば同じ人達がやっている。会社も国家も同質である。だから労働者の立場に立ち議会の場でたたかう仲間（議員）の存在が必要。職場からのたたかいと同時に議会でもたたかう仲間も私たちの大事な仲間である。今年には統一地方選挙の年。私たちの働き方やローカル線問題など、職場存続にかかわる問題にも尽力している仲間との触れ合う場をつくっていく。

諦めることなく、そして騙されることなく、おかしいことは「おかしい」と声を出し、仲間とともに職場からたたかい、組織強化・拡大を成し遂げていく。



川崎運輸区分会の再建、不当転勤を乗り越え、全てのたたかいを組織強化・拡大に向けてつくり出す。**川崎支部**

支部間を超えた組合員の同士の交流・議論の場をつくり、組織強化・拡大を分会と共につくり出す。**横浜支部**

不当労働行為を断固許さず、集まる場づくりに拘り、組合員・未加入者のJR東労組への結集を勝ち取る。**大船支部**

職場運動の実践から組織強化・拡大と賃上げ・労働条件向上のたたかいを共に推し進める。**小田原支部**

青年部員との対話に拘り、10～20年後のJR東労組の展望を切り拓いていく為に仲間と実践していく。**地本青年部**

